

NDEC／廃炉創造ロボコンについて

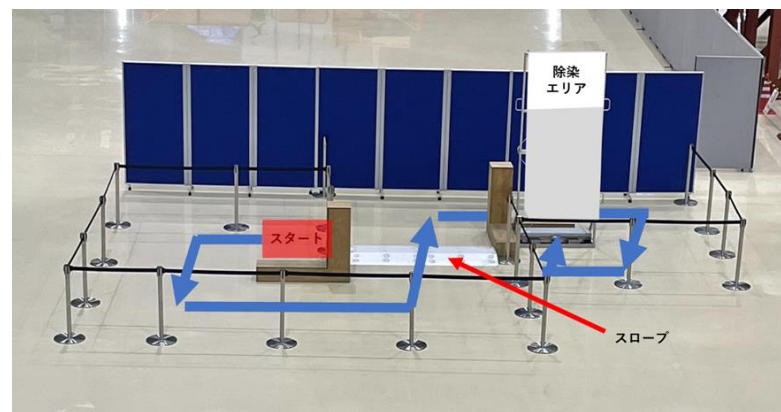
令和4年2月25日
第10回廃炉研究開発連携会議

日本原子力研究開発機構
福島研究開発部門
廃炉環境国際共同研究センター

1. 開催日時 : 令和4年3月11日(金) 9:30~17:00(予定)
2. 会議名称 : 第7回次世代イニシアティブ廃炉技術カンファレンス
(The 7th Conference for R&D Initiative on Nuclear Decommissioning Technology by the Next Generation:NDEC-7)
3. 会議形式 : オンライン(zoomによるWeb会議)
4. 主催 : 次世代イニシアティブ廃炉技術カンファレンス実行委員会
共催 : JAEA
後援 : NDF(予定)、原子力学会
5. 開催目的 : NDECは人材育成を目的とした学生の研究成果発表の場であり、廃止措置に関係する若者が互いに成果を発表し、切磋琢磨することで研究に対するモチベーションを高める場となることを目指し、長期に渡るプロジェクトである1Fの廃止措置を担う若い技術者や研究者を育成することを目的とする。
6. 会議概要
 - ・研究成果発表:
 - ▶セッションA:発表時間15分、質疑応答時間5分
→研究成果やデータが十分得られていて、議論の時間を多く取りたい学生向け
 - ▶セッションB:発表時間7分、質疑応答時間3分
→研究途中の成果を速報的に発表したい学生向け
 - ・招待講演:2件(予定)
 - ・表彰:表彰委員会を組織し、優秀発表者を選定・表彰する。表彰状、トロフィーを授与

2. 第6回廃炉創造ロボコン(1)

1. 開催日時 : 令和3年12月11日(土) 10:00~16:30
2. 開催場所 : 日本原子力研究開発センター 櫛葉遠隔技術開発センター
3. 主催 : JAEA、廃止措置人材育成高専等連携協議会
後援 : 復興庁、文科省、経産省、高専機構、NDF、IRID、福島県、富岡町、櫛葉町 他
4. 開催目的 : ロボット工学に関する研究に取り組む高専生を対象として、1F 廃炉への適用を想定したロボット製作研究の成果を発表し、競い合い、学び合う機会を提供することにより、1F廃炉の将来人材の確保・育成に資する。
5. 競技概要 : 1F廃炉における使用済燃料プールからの燃料取り出し作業に向けて必要となる原子炉建屋内の高線量エリアの遠隔高所除染を想定した競技フィールドを設置した。実際の除染では壁表面の剥離等を行うが、本競技では指定したペンで壁に張り付けた模造紙を塗りつぶすこととした。ロボット本体が見えないところからの遠隔操作により、制限時間10分として競技を実施した。
6. 参加者 : 参加12校 13チーム 競技参加者57名
7. 来場者 : 111名(国会議員・官公庁・自治体等59名、一般来場者42名、プレス10名
(主な来賓: 末松文科大臣(ビデオメッセージ)、新妻復興副大臣、増子参議院議員、亀岡衆議院議員、金子衆議院議員、遠藤広野町長、松本櫛葉町長 他)



競技フィールド

8. 競技結果

表彰名	高専名
文部科学大臣賞(最優秀賞)	小山工業高等専門学校
福島県知事賞(優秀賞)	大阪府立大学工業高等専門学校
原子力機構理事長賞(技術賞)	茨城工業高等専門学校
高専機構理事長賞(アイデア賞)	旭川工業高等専門学校
イノベ機構理事長賞(イノベーション賞)	一関工業高等専門学校
特別賞・アトックス賞	熊本高等専門学校
特別賞・日立GEニュークリア・エナジー賞	奈良工業高等専門学校
特別賞・技術者育成いわき経済活性化グループ賞	富山高等専門学校

9. 報道状況 : 12/5朝日新聞(栃木版)、12/6北日本新聞(富山版)、12/11福島中央テレビ(夕方ニュース)、12/11テレビユー福島(夕方ニュース)、12/11共同通信配信(12/12茨城新聞、東京新聞、西日本新聞など)、12/12福島民報、12/12福島民友新聞 他

10. 総評 : 参加13チーム中、約半数のチームが最終課題に到達しており、課題の難易度としては適切であったと考える。次年度課題については、新たに障害を追加するなど、本年度課題を基に難易度を上げたものを外部有識者の意見を伺いながら決定したい。
過去に競技に参加した学生が就職して1F 廃炉に従事するなど、人材育成・確保につながる取り組みとなっており、今後も関係機関の協力のもと継続していきたい。



参加高専生集合写真



競技状況



文部科学大臣賞授与
(小山工業高等専門学校)